

論点整理表（平成30年度業務実績・財務諸表等）

No.	連番	区分	意見・質問等の内容	左への対応等	担当課
1	全般	質問	「年度計画を上回って実施している」（自己評価Ⅳ）が18項目となっている。このうち、年度計画評価指標のある項目を除く連番5、8、69、78、86、90、92、93、97、99、100、117については、当初見込んだ件数、当初見込んだ効果等とどのように比較したのか、その基準とプロセスを伺いたい。また、29年度もほとんどⅣになっている項目なので、29年度との比較ではどうか。	各種展示会や演習授業の実施回数、受託事業の実績等の定量的な評価基準に基づくものは、前年度（29年度実績）の評価をベースとしております。 （→連番5、8、69、78、86、90、117） また、事業内容の充実度や取組の意義等の定性的な評価基準に基づくものは、学内の自己評価委員会（委員長：理事長）において、個別項目毎の評価区分を総合的に判断し決定しております。 （→連番92、93、97、99、100） なお、現状の評価サイクルでは、前年度との比較が基本となることから、その経年比較の意義を含め、第2期中期計画（年度計画）の評価に向けて検討してまいります。	企画課
2	全般	質問	年度計画評価指標のある項目のうち、連番7、24、42、47、70、71、87、（91）は、数的に「年度計画を上回って実施」しており、自己評価Ⅳのほうがわかりやすいと思うが、Ⅲとしている理由は何か。	年度計画に評価指標を設定し、定量的な評価基準に基づくものは、前年度（29年度実績）の評価をベースとしております。 明確な評価基準については、第2期中期計画（年度計画）の評価に向けて検討してまいります。	企画課
3	全般	意見	大学運営において、「ダイバーシティ」の確保を意識することが望ましい。ダイバーシティには女性登用の視点がある。また、海外留学生の受け入れや海外の大学との交流を進めていくことも、これに資すると評価。インバウンドが地方創生策の一つに掲げられている中、海外の当地への関心を高める観点からも有用と思われる。	貴重なご意見として承ります。本学も第2期中期計画中に「ダイバーシティの推進」を掲げており、学内の意識啓発を図るための講演会の開催をはじめ、今後取り組むべき施策について検討を進めてまいります。	企画課

No.	連番	区分	意見・質問等の内容	左への対応等	担当課
4	全般	意見	情報セキュリティについては、東京オリ・パラなどの大きなイベントを控えている中で、標的型メールへの注意喚起など警戒を強めることが望ましい。この他、SNS等を通じた不適切な情報発信なども大きなリスクがある。	貴重なご意見として承ります。学生に対しては、情報リテラシー教育により情報セキュリティ等の知識と技術の習得を図るとともに、教職員に対しては、学内情報システムにより標的型メール等への注意喚起と情報共有を引き続き実施してまいります。また、SNSを通じた情報管理については、ブランドイメージにも直結する重要な課題であると認識しており、今後組織的な取組を進めてまいります。	総務課 企画課
5	全般	意見	コンプライアンスについては、不正経理等の法令違反抑止への対応に加え、社会の要請に誠実に従う（complyする）視点が重要。社会の要請は、刻々と変化していくので、これを意識した組織運営が望まれる。ハラスメントについても、セクハラ、パワハラに加え、マタハラなど拡がりをもってきていることにも目配りをするのが望ましい。	貴重なご意見として承ります。社会における要請の変化も踏まえながら、引き続きコンプライアンス推進責任者等をメンバーとする研究不正防止推進委員会を中心に、コンプライアンス教育等に取り組んでまいります。また、ハラスメントについては、毎年実施している研修の中で、新たなハラスメントにも対応できるよう知識や情報の修得に努めてまいります。	総務課
6	2	質問	30年度計画では、「東北生活文化論」、「異文化コミュニケーション論」とあるが、30年度業務実績では「文芸演習」「食文化論」となっている。講座名が変わった理由はなにか。	科目名の例示が整合していないことから、計画と同様になるよう修正します。	学生課
7	4	意見	30年度実績に「デザイン」とあるが、「デザイン史」の誤りではないか。	ご指摘のとおり修正します。	学生課
8	8	質問	自己評価をIVにした理由は何か。 (H30からの新項目)	年度計画どおり秋田空港での作品展示を実施したほか、学外企画展への積極的な出展等を通じて、広く広報活動を展開したことから、自己評価委員会においてIV評価と整理されたものです。	企画課

No.	連番	区分	意見・質問等の内容	左への対応等	担当課
9	8	意見	秋田県が行うイベントにも積極的に参加してはどうか。	貴重なご意見として承ります。今後の可能性を検討してまいります。	企画課
10	9	質問	計画と実績におけるNPO法人アートセンター事業の位置づけはどのようになっているか。	サテライトセンターにおけるスクール事業や展示企画は、本学からの委託事業としてアートセンターあきたが実施しているものであり、同法人を設置した大きな成果と捉えております。	企画課
11	11	質問	30年度実績に「前年度との比較分析」とあるが、どのような結果であったか。	例年とほぼ同様の傾向ではありますが、「5-2-1システムにより様々な分野を学ぶことが出来ること」や「学費や試験日程等の公立大学のメリット」への評価が高くなっております。	学生課
12	19	質問	教員職員免許状等の取得実績は、他の美術大学と比較してどのような状況か。	本学の取得実績については、30年度が17.2%（99名卒業、17名取得）、29年度が13.5%（89名卒業、12名取得）となっており、他の美術系大学に比べ取得割合はやや高いものと捉えております。	学生課
13	22	質問	再編後の教育課程の実施年度はどのようになっているのか。	修士課程において、今年度から新たな教育課程により実施しております。	学生課
14	23	質問	計画の記述は、「満足度評価4.0以上を継続」となっているが、平均が3.5以下の授業担当教員が存在することに矛盾はないか。（関連する連番47）	授業アンケートの満足度評価は全て平均値で集計しており、年度計画についても「全体の平均」と記載すべきものです。	企画課
15	23	質問	アンケート結果の平均が3.5以下の授業担当教員は何名か。	学部と大学院における平均が3.5以下の授業は4件（前期3件、後期1件）であり、そのうち2件は非常勤講師によるもの、残りの2件は大学院授業で複数人の教員が担当する授業となっております。	企画課
16	30	意見	「カリキュラムポリシー」「学修成果」の用語で修飾されない「アセスメントポリシー」の用語は、わかりにくいと思う。	ご指摘を踏まえ以下のとおり修正（追記）します。 「・成績評価基準を明示するため、アセスメントポリシー（学修成果の評価方法）を策定し、学則、履修規程に基づき、単位認定や進級、卒業判定を厳正に行った。」	学生課

No.	連番	区分	意見・質問等の内容	左への対応等	担当課
17	35	質問	年間パスポートは、学生全員に2枚（秋田県立美術館および千秋美術館分）配布したのか。	お見込みのとおりです。	学生課
18	42	質問	秋田魁新報社のデータベースは利用していないのか。	平成30年度に導入したデータベース「日経テレコン」において、秋田魁新報の記事も閲覧可能であることから個別に契約はしておりません。	図書館
19	45	質問	自己評価をⅢにした理由は何か。 (H30からの新項目)	年度計画どおりティーチングアシスタント制度の運用を図ったことから、自己評価委員会においてⅢ評価と整理されたものです。	企画課
20	46	意見	教員評価制度が、再任審査とリンクする教員の範囲はどのように定められているかがわかる記述が必要ではないか。	教員評価は、助手を除く全教員を対象に実施し、再任審査は、当該年度に任期を迎える教員を対象に実施しております。なお、教員評価制度の再任審査への活用については継続して検討することとしております。	総務課
21	47	質問	学生授業アンケートにおいて、大学院は平均3.9とあるが、やや低いのではないか。また、その理由はなにか。	(大学院の開設から日が浅く) 大学院生が求める指導内容等と、担当教員の指導方法やカリキュラムに若干の相違が生じていたものと捉えております。	企画課
22	61	質問	自己評価をⅣからⅢにした理由は何か。	(当該項目を経年比較することは困難ではありますが) 29年度はキャリアセンターの設置のみならず、キャリアラウンジの整備を達成したことから、自己評価委員会においてⅣ評価と整理されたものです。30年度は年度計画どおり事業を推進した結果、同委員会においてⅢ評価と整理されたものです。	企画課
23	61	質問	キャリアセンターに関わる人員を何名増員したのか。また、キャリアラウンジの規模はどの程度か。	キャリアセンターについては、教員を5名増員いたしました。また、キャリアラウンジは、求人票や各種セミナー等のキャリアに関する情報収集できるスペースのほか、適職診断やWeb面接に対応可能なPCを2台設置しており、キャリア面談や学内個別企業説明会、ミーティング等に活用しております。	学生課

No.	連番	区分	意見・質問等の内容	左への対応等	担当課
24	62	質問	評価指標では、進路決定率100%の目標に対し、87.9%（学部）の実績だったが、自己評価をⅢ（年度計画を十分に実施している）とした理由は何か。	他の美術系大学と比較し、本学の進路決定率は決して低いものとはとらえておらず、また、概ね29年度と同程度の進路決定率を確保できたことから（△2.1ポイント）、自己評価委員会においてⅢ評価と整理されたものです。	企画課
25	70	質問	自己評価をⅢからⅣにした理由は何か。	申請件数はもとより、採択率31.3%（5件/16件）が全国平均（基盤研究C：27.9%）を上回ったことから、自己評価委員会においてⅣ評価と整理されたものです。	企画課
26	70	質問	「D：H30年度大学を活用した文化芸術推進事業」の内容はどのようなものか。	前回の「AKIBI PLUS」に続き、文化庁の助成を受けて実施するアートマネジメント人材育成を目的とする事業であり、30年度は「AKIBI複合芸術プラクティス旅する地域考」として、全国から募集した受講者が本学の教員や海外で活躍するアーティスト等とともに県内各地を巡り、リサーチと集中ワークショップを実施しております。	企画課
27	74	質問	BIYONG POINTの来場者はどのような状況か。	BIYONG POINTについては、常駐職員がおらず入場者のカウントが困難な状況となっております。	企画課
28	78	意見	「あらやさん」は、「賃借し」という意味ではないか（関連する連番92）	ご指摘を踏まえ以下のとおり修正（追記）します。 「(イ) 長期レジデンス受入を目的とした3軒目の空き家（あらやさん）を賃借し、学外ゲスト等に無償で貸し出したほか、外部アーティストを招聘し、レクチャー・ディスカッションを行う以下の事業を実施した。」	企画課
29	79	意見	特任教員等が「プロジェクト等を実施するため」ということであれば、教職教員以外に研究推進のための教員活用の例があれば記述した方が良い。	ご指摘を踏まえ以下のとおり修正（追記）します。 「・また、客員・特任教員として世界的に活躍するトップアーティスト等を10名招聘した（連番38の再掲）。」	学生課
30	81	質問	自己評価をⅢからⅡにした理由は何か。	年度計画に掲げたキャンパスマスタープランの策定に至らなかったことから、自己評価委員会においてⅡ評価と整理されたものです。	企画課

No.	連番	区分	意見・質問等の内容	左への対応等	担当課
31	81	質問	30年度実績に「他大学の構想等」とあるが、参考とした大学はどこか。	2019年4月に市ヶ谷に新キャンパスを開設した武蔵野美術大学と、2023年にキャンパス移転を予定している京都市立芸術大学の2校を参考としております。	総務課
32	82	質問	自己評価をⅢにした理由は何か。 (H30からの新項目)	年度計画どおり長期修繕計画の推進を図ったことから、自己評価委員会においてⅢ評価と整理されたものです。	企画課
33	87	意見	91は87の再掲とみられるが、再掲とならないよう計画を策定できないものか。	計画の性質上、一部項目に再掲が生じております。第2期中期計画の策定にあたっては、全体の項目数を精査したほか、再掲項目についても可能な限り整理したところであります。	企画課
34	99	質問	国際交流センターの教職員の構成はどのようになっているのか。	30年度は、センター長（教授）以下、国際経験が豊富な教員6名（教授5名、准教授1名）のほか事務局職員5名によって構成しております。	企画課
35	100	質問	自己評価をⅢからⅣにした理由は何か。	受け入れプログラムの検討のみならず、本学では初めてとなる海外留学生の受け入れを実施したことにより、今後のモデルケースとしての大きな成果を得られたことから、自己評価委員会においてⅣ評価と整理されたものです。	企画課
36	108	質問	30年度実績に「6名採用」とあるが、増員か、欠員の補充によるものか。また、教員、助手は任期制か。	採用した5名については、欠員補充のため採用したものであるほか、残り1名については、次年度における指導体制を臨時的に確保するため、期間限定で採用したものです。 また、本学では、教員、助手ともに任期制を導入しております。	総務課
37	117	質問	自己評価をⅢからⅣにした理由は何か。	科研費の採択率31.3%（5件/16件）が全国平均（基盤研究C：27.9%）を上回ったほか、文化庁の助成を受けたこと等により、外部資金収入が大幅に増加したことから、自己評価委員会においてⅣ評価と整理されたものです。	企画課

No.	連番	区分	意見・質問等の内容	左への対応等	担当課
38	117	質問	「平成30年度科学研究費助成事業学内説明会」の参加者数10人とあるが、少ないと感じる。教員の関心がないのか。	学内説明会は次年度の申請に向けた制度概要の共有を主な目的として開催しております。29年度（30年度申請）に申請書様式の大幅な変更があったことから、制度変更が少なかった30年度（31年度申請）については参加者が減少したものと捉えております。	企画課
39	122	質問	認証評価機関の評価項目として重視されることになった「内部質保証体制」整備の進捗状況について伺いたい。	各年度の業務実績および年度計画の策定等については、自己評価委員会での審議を踏まえ、学内の教育研究審議会のほか、理事会構成員および学外有識者4名で組織する経営審議会において審議し、その後理事会での承認を得ております。また、各審議段階および法人評価委員会からの意見等については、適宜該当委員会等にフィードバックし、次年度に向けた改善を求めています。	企画課
40	138	質問	ハラスメント防止等対策委員会への相談の有無。	30年度において、ハラスメント防止対策委員会への相談はありません。	総務課
41	事業報告書	意見	「教育に関する目標を達成するための措置」について、アセスメントポリシーを整備したことなので、学修成果の向上のための積極的な姿勢を記述しても良いように思う。	業務実績と事業報告書の記載内容については、互いに整合が図られるよう十分留意してまいります。	学生課
42	財務諸表	質問	取り崩した目的積立金の使途について、基準などがあれば教えていただきたい。建物の修繕などには支出できるのかどうかなど。（財務諸表P2, P12関連）	中期計画に記載している剰余金の使途（教育研究の質の向上および組織運営の改善のための費用に充てる）以外に、特に基準は定めておりません。目的に合致すれば建物の修繕に充当することも可能であると捉えております。	総務課
43	財務諸表	質問	差し支えなければ、積立金（P4）の第2期中期目標期間での活用見込み（地方独立行政法人法 § 40条関連）について教えていただきたい。	今年度は、学割証自動発行機導入事業、メンタルヘルス支援対策事業、選抜展示企画事業など、予算額ベースで853万9千円を使用することとしております。また、令和2年度以降については未定としております。	総務課

No.	連番	区分	意見・質問等の内容	左への対応等	担当課
44	財務諸表	質問	目的積立金と積立金の違いは何か。	<p>毎事業年度の当期未処分利益を整理するにあたり、地方独立行政法人法第40条第3項の規定により秋田市長による経営努力の認定を受け承認されたものが目的積立金となり、受けないものが積立金となります。</p> <p>また、目的積立金は次年度以降、法人の定めた剰余金の使途（教育研究の質の向上および組織運営の改善のための費用に充てる）に使用可能となる一方、積立金は損失の穴埋めにのみ使用可能となるものです。</p>	総務課